

Google Workspace for Education ライセンスのプロビジョニング

Google Workspace for Education 有償エディションのスタートガイド

Google Workspace for Education の有償エディション ([Education Standard](#)、[Teaching and Learning Upgrade](#)、[Education Plus](#)) は、教育向けにカスタマイズされたエンタープライズ級のツールを備えており、革新的な学習環境の実現に役立ちます。ここでは、Google Workspace for Education の有料ライセンスをユーザーにプロビジョニングするためのさまざまな方法について、詳細な手順を紹介します。

目次

[Google Workspace for Education 有償エディションのスタートガイド](#)

[目次](#)

[ライセンスを展開するためのヒントとベスト プラクティス](#)

[ライセンス割り当ての仕組み](#)

[ライセンスの割り当て方法](#)

[Google Workspace 管理コンソールの使用](#)

- ユーザー単位のライセンスの自動割り当て
 - 組織内のすべてのユーザーに自動的にライセンスを割り当てる
 - 組織部門 (OU) へのライセンスの自動割り当てを設定する
 - 親組織の設定をオーバーライドする組織を設定する
 - 組織のオーバーライド設定を元に戻す
 - オーバーライドが設定された組織のライセンスの自動割り当ての設定を切り替える
-

[ユーザー単位のライセンスの手動割り当て](#)

- [ユーザー] ページで手動でライセンスを割り当てる、削除する
 - 個々のユーザーのページで手動でライセンスを割り当てる、削除する
 - 一括アップロードを使用してライセンスの割り当てと削除を手動で行う
-

[Google Cloud Directory Sync \(GCDS\) の使用](#)

- ライセンスの割り当て
-

サードパーティ製のコマンドライン ツール(GAM など)の使用

- ライセンスの割り当て
 - ライセンスの削除
-

Enterprise License Manager API の使用

ライセンスを展開するためのヒントとベストプラクティス

- 管理コンソールにアクセスして Google Workspace for Education の有料ライセンスを配布できるのは、Google Workspace 管理者だけです。
- ライセンスのプロビジョニングにはさまざまな方法がありますが、1つの方法を選択して、それを継続的に使用することをおすすめします。
- ライセンスを割り当てる前に、対象となる組織部門またはグループから[停止中のユーザーを移動](#)することをおすすめします。そうすることで、停止中のユーザーにもライセンスを付与してしまうことを回避できます。

ライセンス割り当ての仕組み

ユーザーが Google Workspace for Education 有償エディションの機能を活用するには、ライセンスが必要です ([ヘルプセンター](#))。

ライセンスは、個々のユーザー、組織部門内のすべてのユーザー、または Google Workspace ドメイン内のすべてのユーザーに割り当てることができます。

重要

割り当て可能なライセンス数は、以下で説明する割り当て方法(自動と手動)のどちらを使用する場合でも、購入した数までに限られます。購入したライセンスより多くのライセンスを割り当てようとすると、エラーメッセージが表示され、ライセンスは割り当てられません。このような場合は、ユーザーからライセンスの割り当てを解除するかライセンスを追加購入する必要があります。

ライセンスの割り当て方法

Google Workspace 管理コンソールの使用

ユーザー単位のライセンスの自動割り当て

組織内のすべてのユーザーに Google Workspace for Education の有料ライセンスが必要なことがわかっている場合は、ライセンスの自動割り当てをオンにすることができます。これにより、アカウント内でライセンスが割り当てられていないユーザーと、それ以降に追加される新しいユーザーに、Google Workspace for Education のライセンスが自動的に割り当てられます。複数の Google サービスをご利用の場合は、1つのサービスに対してのみライセンスの自動割り当てをオンにすることができます。

注:

- 複数の Google サービスや同じサービスの複数のサブスクリプションをご利用の場合は、1つのサービスまたはサブスクリプションに対してのみライセンスの自動割り当てをオンにすることができます。
- 最上位組織の下に組織部門がある場合は、特定の組織部門に対してライセンスの自動割り当てオプションを設定できます。
- サービスのライセンスをすべてのユーザーに自動的に割り当てることを選択した場合、個々のユーザーのライセンスを削除することはできません。
- ライセンスの自動割り当てが反映されるまでには、最長で 24 時間ほどかかることがあります。
- ライセンスの自動割り当てを有効にした組織または組織部門では、アクティブ ユーザーと停止中のユーザーの両方にライセンスが割り当てられます。ライセンスを割り当てる前に、対象となる組織部門から [停止中のユーザーを移動](#) することをおすすめします。そうすることで、停止中のユーザーにもライセンスを付与してしまうことを回避できます。

組織内のすべてのユーザーに自動的にライセンスを割り当てる

組織内のすべてのユーザーに自動的にライセンスを割り当てるには、管理コンソールの [ライセンスの設定] ページに移動します。

1. 管理コンソールのホームページで、メニューをクリックし、画面の左側で [お支払い] > [ライセンスの設定] をクリックします。
2. ライセンスを割り当てるサービスをクリックします。
3. [オフ] をクリックして [オン] を選択します。
4. 同じサービスの複数のサブスクリプションがある場合は、ライセンスの自動割り当てに使用するサブスクリプションを選択します。
5. [保存] をクリックします。

組織部門(OU)へのライセンスの自動割り当てを設定する

Google 管理コンソールで組織部門を設定すると、すべての子組織は親組織のライセンスの自動割り当て設定を継承します。ただし、親組織の設定をオーバーライドし、個別にライセンスの自動割り当てを設定することも可能です。



重要

どのような場合に設定を継承またはオーバーライドすればよいか、ライセンスの自動割り当てが既存のユーザーに与える影響などについて理解するには、こちらの[ヘルプセンター記事](#)をご覧ください。

親組織の設定をオーバーライドする組織を設定する

1. 管理コンソールのホームページから、[お支払い] にアクセスします。
2. サブスクリプション名の左にある下向き矢印をクリックしてボックスを開きます。([自動ライセンス] 欄に、組織全体に対する自動ライセンス割り当ての設定 (オンまたはオフ) が表示されます。また、デフォルトの設定がオーバーライドされている組織も表示されます。)
3. [特定の組織をオーバーライド] をクリックします。
4. (省略可) 組織名の横にある下向き矢印をクリックして子組織を表示します。
5. 組織にカーソルを合わせ、[オーバーライド] をクリックします。
6. 他の組織についても手順 5 と 6 を繰り返します。
7. [完了] をクリックします。
8. [お支払い] ページで [保存] をクリックします。サブスクリプション ボックスの [組織のオーバーライド] の下に、設定した組織が表示されます。

組織のオーバーライド設定を元に戻す

1. 管理コンソールのホームページから、[お支払い] にアクセスします。
2. サブスクリプション名の左にある下向き矢印をクリックしてボックスを開きます。
3. 組織の右にある [X] をクリックしてオーバーライドを解除します。
4. [保存] をクリックします。



ヒント:

オーバーライドの設定とオーバーライドを元に戻す設定の両方を同時に行う場合は、上記のオーバーライドの手順 4~9 を行い、手順 6 で必要に応じて [継承] または [オーバーライド] をクリックします。

オーバーライドが設定された組織のライセンスの自動割り当ての設定を切り替える

1. 管理コンソールのホームページから、[お支払い] にアクセスします。
2. サブスクリプション名の左にある下向き矢印をクリックしてボックスを開きます。

3. 組織の右にある [オン] または [オフ] をクリックします。
4. [オン] または [オフ] を選択します。
5. [保存] をクリックします。

ユーザー単位のライセンスの手動割り当て

ライセンスは、個々のユーザー、アップロードしたユーザーリスト、組織部門全体に手動で割り当てることができます。

組織にライセンスを手動で割り当てる場合、その組織のユーザーにのみライセンスが付与されます。下位組織のユーザーにはライセンスが自動的に付与されないため、手動で割り当てる必要があります。

[ユーザー] ページで手動でライセンスを割り当てる、削除する

1. 管理コンソールのホームページから、[ユーザー] にアクセスします。
2. ライセンスを割り当てる、または削除する各ユーザーのチェックボックスをオンにします。
3. 上部にある [その他] > [ライセンスを割り当て] または [ライセンスを削除] をクリックします。
4. [Google Workspace for Education] > [割り当て] または [削除] をクリックします。(注: Google Workspace for Education ライセンスの種類が複数ある場合は、プルダウンメニューから特定の種類を選択できます。)

個々のユーザーのページで手動でライセンスを割り当てる、削除する

1. 管理コンソールのホームページから、[ユーザー] にアクセスします。
2. 管理するユーザーの名前をクリックします。
3. 下にスクロールして、ユーザーの [ライセンス] をクリックします。
4. [Google Workspace for Education] をクリックすると、[ステータス] 列にオンとオフのスイッチが表示されます。
5. [Google Workspace for Education] の横にある [ステータス] 列で、スイッチをクリックしてライセンスを割り当てるか削除します。
6. [保存] をクリックします。(注: Google Workspace for Education ライセンスの種類が複数ある場合は、プルダウンメニューから特定の種類を選択できます。)

一括アップロードを使用してライセンスの割り当てと削除を手動で行う



注:

一括アップロードで一度に割り当てられるライセンス数は最大 200 個です。200 個を超えてライセンスを割り当てる場合は、このプロセスを必要なだけ繰り返します。

ステップ 1: ユーザー情報をダウンロードする

1. 管理コンソールのホームページから、[ユーザー] にアクセスします。
2. ページの上部にある [ユーザーをダウンロード] をクリックします。
3. [選択] 列で [すべてのユーザー情報の列と現在選択されている列] を選択します。
4. 希望のファイル形式を選択して [ダウンロード] をクリックします。

ステップ 2: ライセンス情報を入力する

1. スプレッドシートで [New Licenses [UPLOAD ONLY]] と表示されている列を見つけます。(ユーザーに現在割り当てられているライセンスを確認するには、[Licenses [READ ONLY]] 列を使用します。)
2. 割り当てるライセンスの [SKU ID](#) を以下のとおり入力します。
 - a. Google Workspace for Education Plus - Legacy: 1010310002
 - b. Google Workspace for Education Plus - Legacy (Student): 1010310003
 - c. Google Workspace for Education Plus: 1010310008
 - d. Google Workspace for Education Plus (Staff): 1010310009
 - e. Google Workspace for Education Standard: 1010310005
 - f. Google Workspace for Education Standard (Staff): 1010310006
 - g. Google Workspace for Education: Teaching and Learning Upgrade: 1010370001
3. SKU ID は最大 200 ユーザーまで入力できます(上記の注を参照)。
4. ファイルを CSV 形式 (.csv) で保存します。

ステップ 3: ファイルをアップロードする

1. 管理コンソールの [ユーザー] ページの上部にある [ユーザーの一括更新] をクリックします。
2. [CSV ファイルを添付] をクリックします。
3. パソコン上で CSV ファイルがある場所に移動し、ファイルを添付します。
4. [アップロード] をクリックします。エラーが表示された場合は、不足している情報をスプレッドシートに入力し、もう一度ファイルをアップロードします。詳しくは、[一般的なエラー](#)をご覧ください。

[タスクリスト](#)が自動的に開き、アップロードの処理状況が表示されます。処理が完了すると、管理者宛てにレポートがメールで届きます。処理中にエラーが発生した場合は、タスクリストのログファイルをダウンロードしてください。詳しくは、[一般的なエラー](#)をご覧ください。

Google Cloud Directory Sync (GCDS) の使用

[Google Cloud Directory Sync](#) (GCDS) を使用すると、ユーザー、グループ、連絡先を自動的に同期し、Google アカウントのデータと LDAP サーバー (Microsoft Active Directory など) のデータを一致させることができます。また、GCDS でライセンスをユーザー、組織部門、グループごとに同期することも可能です。

ライセンスの割り当て

1. まず、[こちらの説明](#)に沿って GCDS の仕組みを理解し、開始方法をご確認ください。
2. 設定マネージャーを使用して同期を設定します。
3. 設定マネージャーの [Licenses] ページで、Google アカウントのユーザーに対する GCDS のライセンスの同期を設定します。
4. メールアドレス属性を割り当てます。[Email address attribute] で、LDAP ユーザー アカウントと Google アカウント ユーザーの間でメールアドレスをマッピングする際に使用する属性を指定します。
5. [ルールの追加] をクリックして、ライセンスの割り当てに進みます。
6. [LDAP Query] 欄で、ライセンスを割り当てる LDAP ディレクトリのユーザーを、LDAP クエリの表記法で指定します。
 - a. 重要: 設定できるライセンスの数は、ライセンス SKU ごとに 1 つです。
7. [Assign licenses to Google domain users] を選択します。
8. [License] リストをクリックし、該当するライセンス SKU を選択します。
9. (省略可) ルールに一致しない Google ユーザーのライセンスを削除する場合は、[Remove this license from Google domain users that don't match this rule] チェックボックスをオンにします。
 - a. 注: このチェックボックスをオンにすると、LDAP 設定が正しくない場合に、多数のユーザーのライセンスが削除されることがあります。この機能を使用する前に、設定が適切であることを確認してください。
10. 次のオプションのいずれかを選択します。
 - a. OK - ルールを追加して、LDAP ライセンス ルールの画面に戻ります。
 - b. Apply - ルールを追加し、別の LDAP ライセンス ルールを開始します。
 - c. Cancel - ルールをキャンセルします。
 - d. Test LDAP query - LDAP ライセンス クエリが有効かどうかテストします。



サードパーティ製のコマンドライン ツール(GAM など)の使用

アカウントの大規模なプロビジョニングを短時間で行うには、サードパーティのソリューションを利用します。たとえば、無料でダウンロードできるオープンソースの [Google Apps Manager \(GAM\)](#) では、Admin SDK Directory API を使用して Google Workspace のユーザーとグループを作成、管理します。

GAM は多くの Google API と連携するため、そのメリットを利用すれば、アカウントの他の機能とリソースも管理できるようになります。

重要: Google Cloud サポートでは、GAM などのサードパーティソリューションはサポートしていませんが、そのようなツールで使用される Admin SDK Directory API はサポートしています。GAM には、GAM の使用、複製、配布に関する利用規約を規定する [Apache 2.0 ライセンス](#) が適用されます。

GAM を使用する場合は、以下の手順をおすすめします。

ライセンスの割り当て

1. GAM のウェブサイトから [GAM をダウンロード](#) します。
2. [ツールを設定](#) します。
3. 設定中、Google Workspace のユーザーデータと設定の管理を GAM に許可するかどうかの確認を求められたら、「N」(いいえ)と答えて、ドメイン全体の委任をスキップします。
4. このコマンドは、GAM が適切な Google Workspace アカウント(gam info domain)に関連付けられていることを確認するうえで役立ちます。
5. ユーザー名、組織部門、グループごとに[ライセンスを追加](#)できます。ライセンスを追加する構文は次のとおりです。

```
gam user <username>|group <groupname>|ou <ouname>|all users add license <sku>
```

たとえば、「Teachers」グループのすべてのメンバーに Google Workspace for Education Plus - Legacy ライセンスを追加する構文は、次のようになります。

```
gam group teachers add license 1010310002
```

ライセンスの同期

ライセンスは、指定したユーザーリストへのユーザー登録に基づいて追加または削除することもできます。

- Google グループ、組織部門 (OU) またはローカルのテキスト ファイルを、登録リストとして使用できます。
- ユーザーリストに含まれていないがライセンスは適用されているユーザーは、該当するライセンスがアカウントから削除されます。
- ユーザーリストに含まれているがライセンスを付与されていないユーザーは、アカウントにライセンスが追加されます。
- 停止中のユーザーからライセンスを削除するには「group_ns」を使用できます。

ライセンスを同期する構文は次のとおりです。

```
gam user <username>|group <groupname>|ou <ouname>|all users sync license <sku>
```

例

以下の例は、「e4e」と「e4es」の 2 つの Google グループを追加し、現在ライセンスを付与されているユーザーを追加し、最後にライセンスをグループに同期する構文です。最後のステップで「group_ns (停止中のないグループ)」を使用しているので、停止中のユーザーからはライセンスが削除されます。この最後の 2 つのコマンドは、定期的に繰り返し実行することで、停止されていないグループメンバーとライセンスの整合性を保つことができます。

```
gam create group e4e "Google Workspace for Education users"  
gam create group e4es "Google Workspace for Education Student users"  
gam update group e4e add members license 1010310002  
gam update group e4es add members license 1010310003  
gam group_ns e4e sync license 1010310002  
gam group_ns e4es sync license 1010310003
```

ライセンスの削除

ライセンスを削除する構文は次のとおりです。

```
gam user <username>|group <groupname>|ou <ouname>|all users delete license <sku>
```

たとえば、組織部門「Staff」からライセンスを削除する構文は次のようになります。

gam ou staff delete license 1010310002



Enterprise License Manager API の使用

ライセンスの割り当てと削除には、Enterprise License Manager API を使用することもできます。

Enterprise License Manager API を使用するには、[こちらのスタートガイド](#)を参照するか、以下の手順を実行してください。

- [準備](#) – アカウントを取得し、このサービスの詳細を確認してから、Google API Console にプロジェクトを作成します。
- [クライアントライブラリのインストール](#) – 使用するプログラミング言語のクライアントライブラリをダウンロードし、必要なクラスをインポートします。
- [アプリケーションの承認設定](#) – クライアントの承認を設定します。
- ライセンス管理の方法を理解するために、まず API の[コンセプト](#)を確認します。
- これらをすべて正しく準備する方法を理解し、クライアントのリクエストと API サービスのレスポンスを管理するには、[利用ガイド](#)をご確認ください。